

総説 日本医療通訳学会の設立と学会誌創刊にあたって Establishment of Japan Society for Healthcare Interpreting Studies and Its Official Journal

木内貴弘¹⁾
Takahiro Kiuchi¹⁾

1) 日本医療通訳学会会長・運営委員長

1) 東京大学大学院医学系研究医療コミュニケーション学分野

1) President and Chairperson of the Steering Committee of Japan Society for Healthcare Interpreting Studies

1) Department of Health Communication, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo

近年、旅行や仕事で日本に滞在する外国人の数が急激に増えています(まだ新型コロナ流行の影響が続いていますが、次第に治まりつつあります)。また日本の高度な医療・健診を受けるために来日する外国人も増えています。これらのために、国内の医療通訳の需要が増しており、医療通訳者の養成や資格認定の試み、医療通訳に関連したビジネス等が活発になっています。医療通訳の研究は今後大きな発展が見込まれますが、従来、医療通訳についての学術的な研究発表・交流を行う場は国内にはありませんでした。しかしながら、現段階では国内の研究者数も限られ、単独で学会を設立し、運営するのは困難と考えていました。医療通訳を研究・教育していらっしゃる先生方とご相談し、ヘルスコミュニケーション学関連学会機構の枠組みの中で日本医療通訳学会(Japan Society for Healthcare Interpreting Studies)を設立し、第1回学術集会も同機構の「ヘルスコミュニケーションウィーク 2022 名古屋」で合同開催することにしました[1-2]。本誌は、日本医療通訳学会が発行する日本医療通訳学会誌の創刊号として発行されました。本誌には、第1回学術集会のシンポジウムの講演の内容が総説として掲載されています[3-4]。

ヘルスコミュニケーション学関連学会機構の枠組みでの設立は、学会運営を合理的に・安価に行うという目的だけではなく、医療通訳を、単なる医療知識を持つ通訳ではなく、異言語による異文化コミュニケーションを伴う高度なヘルスコミュニケーションの担い手と位置付けるという意味合いもあります。医療通訳研究者が、幅広くヘルスコミュニケーション関連分野の研究者と交流していくことは、今後の研究の発展のために重要であると考えます。またヘルスコミュニケーションの研究者が医療通訳研究から学び、必要に応じて、関与することも非常に有益であると考えています。医療通訳研究の成果は、医療通訳の実務や制度設計にも役立ちます。研究者だけでなく、医療通訳者やその志望者を含めた、たくさんの方々が日本医療通訳学会の会員となり、本学会誌を購読することを期待しています。

注記

本文書は、第1回日本医療通訳学会学術集会の大会長挨拶をもとに作成しました。

研究資金

該当なし

利益相反自己申告

該当なし

引用文献

[1] 日本医療通訳学会ホームページ <http://HealthcareInterpreting.jp/>

[2] 「ヘルスコミュニケーションウィーク 2022 名古屋」ホームページ <http://HealthCommunicationWeek.jp/2022/>

[3] 服部しのぶ. 通訳者としての医療通訳者. 日本医療通訳学会誌 2023; 1(1):xx-xx

[4] 濱井妙子. 外国人支援者としての医療通訳者. 日本医療通訳学会誌 2023; 1(1):xx-xx

[5] 押味貴之. 医療者としての医療通訳者. 日本医療通訳学会誌 2023; 1(1):xx-xx

*責任著者 Corresponding author: 木内貴弘 (e-mail: tak-kiuchi@umin.ac.jp)